



PM C
matchday program



2013
8.13 (Tue)

VOL.03 第37回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 準々決勝

真の大学日本一へ



Photo: Reiko Iijima



ゴミは各自で
お持ち帰りください。

総理大臣杯の1回戦から準々決勝は
無料で観戦できます！



発行：関西学生サッカー連盟
TEL 06-6268-6400
WEB <http://www.jufa-kansai.jp/>

Match Preview

試合の見どころ

長居第2陸上競技場

15:30 KICKOFF

Reported by 関西学連

鹿屋体育大学

vs

中京大学

鹿屋体育大・青木竜監督は「後半、メンバーを変えて大きな大会の経験を少しでも踏ませたプラスは大きかった。今度の相手はどこであろうと、まず守りが第一であることに変わりはない。守りの厳しさは当然のこと、それを全面に打ち出して戦っていく」と意気込む。

一方、「昨年のインカレでは初戦でPK負けした。初戦の大事さを選手も認識していたと思う。それが生きたということ。この勝ちを励みに次へ、次へと戦っていく」と、中京大・朝倉吉彦監督。「鹿屋体育大は勢いがあるのでペースに引き込まれないように」(朝倉監督)と望む。

長居第2陸上競技場

18:00 KICKOFF

Reported by 風間徹也(読売新聞運動部)

明治大学

vs

大阪体育大学

明治大は2回戦で2得点したFW8,和泉竜司(2年)が頼もしい。守備も安定し、死角は少ない。ただ、大体大には2年前に準決勝でPKの末に敗れており、神川明彦監督は「間違いなく強い。しっかり戦わないと」と話す。

大阪体育大は2回戦で延長戦を戦い、中1日での試合に体調面で不安を残す。テストのため主力も調整不足で、坂本康博総監督は「何とか粘りたい」。FW9,伊佐耕平(4年)ら好調な2トップに球を集めて接戦に持ち込みたい。

J-GREEN堺・メインフィールド

15:30 KICKOFF

Reported by 森田将義(フリーライター)

関西学院大学

vs

福岡大学

関西学院大は「よそ行きのサッカー出来るほどのチームじゃない。うちは自分たちのサッカーをやらなきゃいけない。現時点での意地の張り合いになると思う」(成山一郎監督)と自らの戦いを貫き通す。

対する福岡大は「我々の戦い方、バージョンを変えながら決勝まで戦いたい。今日みたいに守備一辺倒という形にはならないと思う」(乾真寛監督)と変化を示唆。4強入りを掴むのはどちらか。双方の魅力が詰まった熱い試合になりそうだ。

J-GREEN堺・メインフィールド

18:00 KICKOFF

Reported by 藤田真則(読売新聞運動部)

流通経済大学

vs

関西大学

流通経済大は初戦で巧みな位置取りと豪快なシュートで2得点を挙げたMF20,江坂任(3年)に注目が集まる。中野雄二監督が「シュートだけならJリーガー級」と評する力は相手守備陣にはやっかいな存在だ。

一方、2回戦で完封勝利の関西大はDF23,寺岡真弘(4年)を軸にした堅守が光った。攻撃はやや消極的になる時間帯もあったが、2戦目で選手も硬さが取れるだろう。互いに攻守にタレントを抱え、緊迫した攻防が期待される。

★準幹事Presents

coming soon

第37回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント メッセージ企画

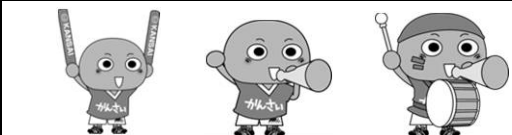
トモニタカオウ ～あなたの想いを選手に届けよう～

監督・選手のメッセージ企画と同じように

メッセージを書いて写真を撮ろう！！

撮った写真は一般ゲートと選手入場口に掲示します！

応援メッセージを書いて選手と共に戦いましょう！！



一般ゲートにてブースをご用意しています！！

メッセージを専用紙に書いていただき

写真を撮らせていただきます

一般ゲートにて皆様のお越しをお待ちしております！！



※尚、この企画は準々決勝より行わせていただきますのでご了承ください。

Match Review Result & Report

Reported by 風間徹也(読売新聞運動部)

大阪体育大学

vs

中央大学

2013年8月11日(日) 15:30キックオフ
会場/長居スタジアム 天候/晴 入場者数/665人

3年連続の対戦となった「因縁のカード」。2011年は決勝で大体大が1-0で競り勝ち優勝、昨年は中央大が3-1と快勝で雪辱していた。そして今年、PK戦にもつれ込む熱戦は、大体大に軍配が上がった。好機の数では中央大が上回っていた。しかし、大体大は2トップが抜群の決定力を発揮。1点を追う24分にFW9、伊佐耕平(4年)がDF陣に挟まれながらもゴール右に流し込んで追いつき、56分にはFKからのこぼれ球をMF10、澤上竜二(2年)が絶妙のトラップで止めて勝ち越しゴールを決めた。中央大のFW10、澤田崇(4年)に2得点を許して追いつかれ、延長戦でも決着はつかなかったが、PK戦に入ると、今年レギュラーをつかんだ大体大のGK1、村上昌謙(3年)の独壇場。抜群の反応で1、2、5人目を止めて2年ぶりの8強入りを決め、村上は「試合でミスしていたので、ここが俺の見せ場だと思った。コースは読めていた」とガッツポーズ。けが人が多く、下級生を起用しながら戦った大体大の坂本康博総監督は「うちのGKは特殊な練習をしているからPKに動じない。1-1から澤上の得点で先に勝ち越せたのが大きかった」と宿敵を下し、安堵の表情だった。

		1-1		
		1-1		
大阪体育大	2	0 EXT 0	2	中央大
		3 PK 2		
24分	伊佐耕平(山田貴之)	得点	7分	澤田崇(砂川優太郎)
56分	澤上竜二(山田大地)	(アシスト)	72分	澤田崇



Reported by 風間徹也(読売新聞運動部)

明治大学

vs

金沢星稜大学

2013年8月11日(日) 18:30キックオフ
会場/長居スタジアム 天候/晴 入場者数/300人

初優勝を狙う明大が快勝で滑り出した。優位な試合運びに持ち込めた要因はFW8、和泉竜司(2年)の先制ゴール。13分、ドリブルで左サイドをえぐったMF10、矢田旭(4年)のクロスで中央で受け、GKの動きを見て左足で冷静に決めた。1回戦で完封勝利を挙げて勢いに乗る金沢星稜大も粘り強い守りから切れのある速攻で対抗したが、中2日の試合はやはりきつかったのか。選手の足が止まり始めた終盤に、試合が大きく動いた。72分に明大のMF7、梅内和磨(4年)が中央で縦パスを受けて2点目を決めると、88分には、FW22、藤本佳希(2年)のパスを受けた和泉がこの試合2点目のゴール。終わって見れば、シュート数は金沢星稜大の4本に対し、明大は24本にも上った。明大がモットーとする「いい守備からいい攻撃」を貫いて初戦を危なげなく勝ち、神川明彦監督は「和泉の先制点が大きかった。期待はしていたが、あれがエースの仕事。カミすぎで動きが堅くなるのが嫌だったが、リラックスして戦うことができた」と満足そう。和泉は「個人的に5、6点は取れた。もっともっとプレーの精度を上げないといけないが、運動量も増えてきたし、調子はいいい」と表情は明るかった。

		1-0		
		2-0		
明治大	3	0	金沢星稜大	
13分	和泉竜司(矢田旭)	得点		
72分	梅内和磨(差波優人)	(アシスト)		
88分	和泉竜司(藤本佳希)			



Match Review Result & Report

Reported by 関西学連

鹿屋体育大学

vs

法政大学

昨年、駒沢大に屈辱の初戦敗退の鹿屋体育大が、鮮やかな先制攻撃で同じ関東勢の法政大を追い詰めて快勝、雪辱を果たした。スタートから鹿屋体育大の攻守には勢いと気力充実があった。両サイドのMF14,小谷健悟(3年)MF13,坂本翔(3年)のチャンスメイクが、法政大の中盤からDFラインの連携を混乱させて圧倒した。鹿屋体大の先制点もそんな中で生まれた。7分、右サイドを駆け上がったMF14,小谷のクロスボールをFW15,米良知記(3年)がつなぎ、MF18,中原優生(2年)がミドルレンジからのクリーンシュートを決めた。法政大のDFは対応が局部で一瞬ずつ遅れた。鹿屋体大の追加点も同じようなパターン。33分、今度も右サイドのMF14,小谷の駆け上がりからゴール前の混戦に持ち込み、こぼれ球をMF14,小谷が決めた。「初めからクリアを大きくと、指示が出来なかった。簡単に点を取られ過ぎた」と法政大・大石和孝監督は嘆いたが、法政大DFは最後まで後手を取り戻せなかった。鹿屋体育大の3点目は62分。今度もMF14,小谷から。中央でMF18,中原がつないでMF13,坂本が叩き込んだ。鹿屋体育大の“黄金のMF”の大活躍だった。法政大の反撃気運が芽生えたのは、この3点のビハインドから。73分、それまで鹿屋体育大の執拗なマークに抑え込まれていたユニバーシアード日本代表のFW14,松本大貴(4年)が独走で1点を返し、79分には右サイドのDF17,森保翔平(4年)-MF5,岩淵貴哉(4年)で2点目を返したが、時すでに遅かった。法政大はFW14,松本の早い段階での得点が生まれていればもっと優位にゲームを進められていただろう。

2013年8月11日(日) 15:30キックオフ
会場/長居第2陸上競技場 天候/晴 入場者数/264人

鹿屋体育大	3	2-0 1-2	2	法政大
7分 中原優生 (米良知記・小谷健悟)		得点	73分 坂本大輝	
33分 小谷健悟		(アシスト)	79分 岩淵貴哉(森保翔平)	
62分 坂本翔(中原優生)				



Reported by 関西学連

早稲田大学

vs

中京大学

1回戦で桃山学院大の固い守りに苦しんだが、勝ちきった早稲田大だが、2回戦でも中京大の堅陣に苦しみ、今度はPK戦の末に涙を飲んだ。ゲームはスコアレスドローに終わったが、両チームとも攻守に高いレベルで、局部での仕掛けあい、潰しあい、スキあらばチャンスの芽をつくりだそうという意欲が満々と満ち溢れている内容で、白熱した。「走り勝っていたと思う。ただ最後の局面での仕掛けの精度、大胆さが出来ていなかった」と早稲田大の古賀聡監督はくちびるをかみしめたが、決定的な場面は早稲田大に分があった感がある。しかし、言い換えれば早稲田大が決定的チャンスを生かし切れなかったのは「ウチは初ゲーム。ゲームをどうすれば生かせるか考えてプレーした」(中京大・朝倉吉彦監督)中京大の先を読んだ執拗なディフェンスがあったからだろう。中京大は3バックだが、機に応じて枚数を増やして対応し、攻めでは3FWがMFの攻撃参加で分厚さを加えるという攻守に数的優位を保つ“一丸”の戦い方で、早稲田大は最後まで手こずったということだろう。

2013年8月11日(日) 18:00キックオフ
会場/長居第2陸上競技場 天候/晴 入場者数/205人

早稲田大	0	0-0 0-0 0 EXT 0 4 PK 5	0	中京大
------	---	---------------------------------	---	-----



Match Review Result & Report

Reported by 藤田真則(読売新聞運動部)

流通経済大学

vs

仙台大学

じっとしているだけでも汗が噴き出してくほどの蒸し暑さの中でも、攻守にハードワークを貫いた流通経済大が勝利を引き寄せた。立ち上がりから積極的にボールを奪いに行き、仙台大のミスを誘うと、すぐさまゴールを狙う。21分には、右サイドからの攻撃に対し、相手GKがセーブしたこぼれ球をファーサイドに詰めていたMF20、江坂任(3年)が押し込んで先制した。対する仙台大の反撃は30分、相手DFの裏に抜け出したFW14、嶺岸光(4年)がゴールを決めて、試合を振り出しに戻した。

しかし、個々の能力で勝る流通経済大はさらにギアを一つ上げる。43分、右サイドのMF19、中村慶太(2年)のクロスをファーサイドで受けた江坂がトラップからシュートフェイントを一つ入れた後、見事な勝ち越しゴールをたたき込んだ。2得点の活躍を見せた江坂は「シュートだけは誰にも負けないと思ってやっている」。後半、仙台大も両サイドからゴール前に何度もボールを入れて何とか同点にしようと試みるが、流通経済大が落ち着いてはね返した。

試合はそのまま2-1で終了のホイッスルを迎え、流通経済大が準々決勝進出。中野雄二監督は「前半からハードワークをしていたので、最後は4、5人の選手が足がつっていた。よくやったと思う」とたたえた。

2013年8月11日(日) 15:30キックオフ
会場/キンチョウスタジアム 天候/晴 入場者数/670人

流通経済大	2	2-1 0-0	1	仙台大
21分 江坂任(湯澤聖人)		得点		30分 嶺岸光(菅井拓也)
43分 江坂任(中村慶太)		(アシスト)		



Reported by 藤田真則(読売新聞運動部)

東京国際大学

vs

関西大学

初出場ながら逆転勝ちで1回戦を突破して勢いづく東京国際大に対し、地元の関西大は初戦ということもあり、試合の入りに硬さが見られた。それでも、次第にポゼッションを高めた関西大はゴールに迫ると、幾度となくCKを獲得する。MF10、和田篤紀(3年)の正確なキックにDF23、寺岡真弘(4年)やDF6、都並優太(4年)が頭で合わせるが得点には至らない。

一方の東京国際大はDFラインを引き気味にしてカウンターを狙うが、シュートまでは持ち込めず、0-0で前半を折り返した。

後半も互いに決定力を欠く中、時計は進んだ。スコアが動いたのは79分。関西大のFW14、篠原宏仁(2年)が中央に戻したところを和田が落ち着いてゴールに流し込んで均衡を破ると、その後は東京国際大の反撃を許さず、逃げ切った。

関西大の島岡健太監督が「最初から難しい試合になると思っていた。相手は守りが堅く、こちらでも極力失点をしないように試合を進めた」と振り返ったように、シュート数は関西大7本、東京国際大3本と双方少なかった。殊勲のゴールを挙げた和田も「引いた相手に対しての崩しができていなかった」と反省。関西大には、勝利とともに準々決勝に向けての課題も浮き彫りになった試合だった。

2013年8月11日(日) 18:00キックオフ
会場/キンチョウスタジアム 天候/晴 入場者数/560人

東京国際大	0	0-0 0-1	1	関西大
		得点		79分 和田篤紀(篠原宏仁)
		(アシスト)		



Match Review

Result & Report

Reported by 森田将義 (フリーライター)

福岡大学

vs

高知大学

「初戦だし、高知大さんも強い相手なので難しい。15時半キックオフで暑さもあったので、最初から消耗の激しい出入りの激しいサッカーは出来なかった」という福岡大・乾真寛監督の読み通り、無理して前に出ず、4バックで後方をしっかりと固めて左サイドのMF22,元田龍矢(1年)の突破を中心に攻め込む高知大に対応する。「いい形でインターセプト出来た時だけカウンターで速く」(乾監督)というのを狙い通り、16分、左サイドでボールを奪ったDF19,武内大(3年)が前線のFW10,山崎凌吾(3年)にクサビのパス。リターンをペナルティエリア右に走りこんだ武内が受けなおし、冷静に押し込んで先制点を奪う。「まさかCBの武内が決めるとは思ってなかった」と指揮官が振り返った一撃でリードを奪った福岡大だったが、1点を奪った安心感から守備ブロックが下がらず、相手攻撃陣に押し込まれたが、「キーパーの藤嶋とCBの大武には自信があるので、ある程度、押し込まれても彼らがいれば問題ない」(乾監督)というDF陣が対応。セカンドボールからのミドルシュートを狙った高知大のミスもあり、リードした状態で前半を折り返す。

後半も「攻める高知大、守る福岡大」という構図は変わらなかったが、要所をしっかりと締めて危ない場面はゼロ。両者決して、良いとは言えない内容だったが、「最後の所で踏ん張れたのは良かったと思う」(福岡大GK1,藤嶋栄介)、「相手が関係なく、自分たちが思っている感じが出来なかった。悔しいというより、情けない」(高知大DF2,帷智行)という両者のコメントが力の差を感じさせた。

2013年8月11日(日) 15:30キックオフ
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/420人

福岡大	1	1-0 0-0	0	高知大
16分 武内大(山崎凌吾)	得点 (アシスト)			



Reported by 森田将義 (フリーライター)

慶應義塾大学

vs

関西学院大学

開始5分で慶應義塾大MF24,加瀬澤力(1年)「にゴールを許した関西学院大だったが、「相手が強い事は分かっていたので、次の試合や前の試合がどうかではなく、この試合に全部出し切れるように4回生を中心にまとまれた」(成山一郎監督)と後方からのボール回しから2列目の突破を引き出し、反撃を開始。20分に左CKのこぼれ球をFW13,呉屋大翔(2年)が押し込み、同点に追いつくと、33分にも前線でボールを受けた呉屋がドリブルで相手をぶち抜きゴールを奪う。「気持ちが入っている時のあいつはやっぱり凄いなと改めて思ったし、チームが助けられた」(成山監督)というエースの2発で逆転に成功した関西学院大だったが、残り10分を切り、猛攻をしかけた慶應義塾大の圧力に押され、84分にDF29,豊川功治(1年)のゴールで再び、同点にされてしまう。ただ、関西学院大に焦りはなし。「同点だから、次、どうしようかなという感じ。飲まれないように、誰か下を向いている奴はいないかが気になったけど、そんな奴はいなかった。今日は彼らに気合が入っているのは伝わった」(成山監督)とすぐさま仕掛け、右サイドを突破したMF12,泉宗太郎(3年)のパスをファーで受けたMF19浅香健太郎(3年)が決めて再逆転に成功。終了間際に受けたパワープレーもGK21,一森純を中心にDF陣が身体を張って耐え凌ぎ、準々決勝進出をきっちりと掴んだ。

2013年8月11日(日) 18:00キックオフ
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/461人

慶應義塾大	2	1-2 1-1	3	関西学院大
5分 加瀬澤力(松下純士)	得点			
84分 豊川功治(山田融)	(アシスト)			
20分 呉屋大翔 (菅掛勇太・関路平)	33分 呉屋大翔			
85分 浅香健太郎(泉宗太郎)				

